

### 3つの言葉を贈る

垂れ込めていた重苦しく厚い雲が、上空の強い風に吹き流されて、青空を背景にした白い雲にとってかわられる。今年は例年よりもずっと雪は少なかったが、春の訪れはいつに変わらぬ歓びと共にやってくる。3月1日に卒業式が行われ、在校生は心を込めて3年生を送り出してくれた。卒業生に、はなむけに贈った一文を載せる。

精神は文教によりて養生せざるべからず  
これは本校の初代校長の言葉であり、右文尚武の源である  
この源に発した1滴水は、110年の歴史を重ね  
滔々と流れる一本の大河となった

右文尚武 質実剛健 玲瓏同氣  
この3つの校標により精神の背骨を獲得した者たちは  
今、その大河に参入しようとする



体中の細胞に 本校のDNAを受け継いで  
新しい人々は今、新たな高みを目指す  
今日ここに集う人々に 次の言葉を贈りたい  
想像力、希望、学問  
この3つの言葉を今日 新しい人々に贈る

一つ目の言葉は、想像力である  
人間にとって最も大切なものは何かと問われ  
フランスの哲学者シモーヌ・ヴェイユは答えた  
それは、あなたの隣人に、あなたはどのようにお苦しいのですかと問うことだ、と

他者の心の深みへと降り立つ想像力をもつこと  
私たちは人類史に刻印された東日本大震災によって、  
絶望的な悲しみの中で立ちすくむ人々の  
圧倒的な苦しみの その一千万分の一であれ  
感じられる自分になろうと決意した

定時制では震災直後に街頭で募金活動に立ち、  
玲瓏祭では復興支援バザーを開催した。  
また、フィリピン地震救援の募金活動を行ったのも  
共に生きる者として想像力を持ち、遠い国の人々の苦しみの、  
幾分なりとも共有したいという姿勢のあらわれであった



相手の心を思い、一人一人の生命への想像力を持てば、  
世界はもっと慈しみに満ち、文化や価値観の相克を  
乗り越えられるはずだ

ユネスコ憲章は謳う

戦争は人の心の中に起きるものであるから、  
人の心の中に平和の砦を築かなければならない、と。  
他者への偏見と憎悪が増幅されて  
心の中に戦争の火種が生まれ、やがて発火点に達する

憎悪によって塗り込められた心の桎梏を解き、  
火種のくすぶりを抑制しうるのは、  
他者の存在への想像力に他ならない

生命は統計やコンピュータの中で把握される無機質なものではなく、  
自分の愛する家族と同じく、寄り添い、愛し合い、  
支え合って息づいているのだという事実想像力が及ぶなら、  
誰がその生命の抹殺を願うだろう

本高生よ 想像力を豊かに広げ、研ぎ澄ませ  
他者への想像力、生命への想像力こそが  
次代を担うリーダーに要請される最重要の資質である。

二つ目の言葉は希望である  
アウシュビッツの強制収容所を生き延びたオランダの  
心理学者フランクルはこう書いている。

「自分の未来をもはや信じることができなくなった者は、  
収容所内で破綻した。  
そういう人は未来とともに精神的なよりどころを失い、  
精神的に自分を見捨て、  
身体的にも精神的にも破綻していったのだ。」と  
極限状態においてなお、いやむしろそうであるからこそ、  
希望は人間存在の根幹を支え、  
困難に打ち勝つ勇気を与えてくれる

いくつもの壁に突き当たり、跳ね返されながら、それでもなお、立ち上がって闘いを挑む  
ことができたのは、  
確かにこの胸の内に育つ希望という  
瑞々しい力によってである

舞台を高校生活に取ってみよう  
白球を追い、弓を引き絞り、トラックを駆けた  
一瞬の間隙に一本を狙い、ゴールめがけてボールを放ち、  
腕も折れよとオールを漕いだ  
作品制作のために取材を重ね、アンサンブルでの稽古を続けた



部活動を終えて帰路につく  
体力は消耗しきっているはずなのだが  
自分の中の声を聴く 右文尚武の心意気を持って  
時間をこじ開け机に向かい、鉛筆を握り直して取り組んできた



若い精神には抱えきれないほどの困難な状況の中で  
苦闘してきた者もある  
出口の見えない長いトンネルを  
たった一人で歩いてきた者もいる  
それは人間関係や社会に対する違和感だったかも知れない  
あるいは青年期特有の  
アイデンティティ・クライシスだったのかも知れない

行く手を阻む壁の前で立ちすくみ うつむいているときに  
励ましてくれたのは家族であり、友であり、教師であった  
彼らは幾度となく気づかせてくれた  
自分の心に確かに育っている希望という力  
その力を汲みいさすべきことを



運動部に所属し、苦しい練習の中で努力を重ね  
成績は常に学年のトップだった者がいる  
難病と闘いながらも部活動を継続し、  
念願だった教師の道へ 一步を踏み出す者がいる  
人間関係の悩みから不登校を経験し、  
定時制で新しい仲間と共に  
学業とアルバイトに懸命に取り組む中で  
笑顔を取り戻した者がいる

こうした者たちを支え、困難に立ち向かわせたのは、  
その胸の内に芽吹いた希望である  
本高生よ どんな試練に直面しようとも  
希望を失ってはいけない  
希望こそが困難な時に諸君を抱きかかえ、  
雄々しく立ち上がらせてくれる母なる力である

3つめの言葉は学問である  
自らの足で立ち学問の翼で飛べ  
この言葉は本校に校長として赴任して以来、  
諸君に話し続けてきた言葉である

大地を踏みしめて逞しく屹立し、  
学びに学んで大空に駆け上がる



その時に、諸君のまなこに見えるのは、  
それまで視界を遮られて見ることのできなかつた  
世界の実相である。  
世界は単一の色彩に彩られているのではなく、  
また、肥沃な平野に覆われているわけでもない。  
高く昇ればのぼるほど、世界の実態が鳥瞰図として把握される。

目をこらせば一群の人影が見え、  
その人々は諸君が舞い降りてくることを渴望しているのだ。  
学べ、学問の翼で高みに至り、世界の実相を見よ。  
そして、諸君の力を必要としている人々の下へ  
疾風のように舞い降りるのだ。  
その人々の下で、その人々の幸福のために生きよ。

ドイツの哲学者カントは言っている。  
幸福はだれもが望む。  
しかし、「自分の幸福」を追求してはならない、と。  
目指すべきは「自分の完全性」と「他人の幸福」である。  
カントは「他人の幸福を促進する」ことを  
人間の義務であると見なしている。

他人の幸福を促進する中で、  
自分の人間としての完全性が実現されると  
カントは考えている。

それは、貢献的人生と言い換えてもいいだろう。  
人に尽くす生き方である。  
本高生よ、貢献的人生を生きよ。  
献身と奉仕の中で、  
自己の内面はダイヤモンドのように磨かれるだろう。  
金剛石は自ずと輝きを放ち、比類無き強さを発揮する。  
学問は貢献的人生に生かされて初めてその意味を完結させる

希望という胴体に学問の翼を持ち、想像力の風をいっぱい受け止めて高く、高く舞い上がれ。



(写真提供 由利写真館)